

出題分析			
試験時間	60分	配点	50点
		大問数	4題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>設問数は昨年度から2問減少して44問となった。出題形式は記述・マーク式の併用で、例年通り語句・正誤文選択や短答記述が中心である。選択問題において2つの選択肢を選ばせる問題は、昨年度から1問増えて全体で2問であった。</p> <p>早稲田大学らしい、判断に迷うような問題は各大問に散見されたが、設問数が減少したことなどもあり、難化した昨年度と比較すると全体的にやや易化したといえるだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	日本における鉱山の歴史	古代～近代の外交・社会を中心とした出題。細かい知識を問う出題がいくらか見られた。5. 難。灰吹法についての細かい知識が問われた。6. やや難。中国地方の戦国大名の勢力図を思い浮かべたい。尼子氏は石見大森銀山のある山陰地方を地盤とした戦国大名である。7. エの大久保長安を知っている受験生はほとんどいないだろうが、消去法で解答したい。ア・イ・オの人物は時期が異なり、ウの神屋宗湛は貿易商人であることからあてはまらないと推測する。9. やや難。ウとオで迷うか。オの見沼代用水は18世紀前半の享保期に開削された。11. 難。	やや難
II	日本における「改革」	古代～近現代の政治・社会・文化を中心とした出題。1. ウは皇極天皇が軽皇子(孝徳天皇)に譲位し、のちに斉明天皇として重祚したことを考えれば誤りとわかる。4. 空欄Bの前に「後嵯峨上皇」, 「院」とあることから想起したい。6. やや難。①の大和猿楽四座の本所は、東大寺ではなく興福寺。④の池坊専応は戦国期(16世紀前半)に活動しており、足利義政とは時期が異なる。10. やや難。Yは農業協同組合ではなく農地委員会である。	標準

設問別講評			
III	日本における食の歴史	原始～近現代の政治・社会・文化を中心とした出題。2. やや難。土器の用途については細かい。Yの高杯（高坏）は食物を盛るための台、Zの壺は貯蔵用の土器である。7. 同じ1836年の郡内騒動との区別に注意。郡内騒動は甲斐国で起こった。8. Zは誤りに気付きにくいかもしれないが、「高い」ではなく「安い」価格である。9. やや難。10. 「い」→「ろ」→「に」を順に並べてアとオに絞った上で、「は」が入る時期を考えたい。	標準
IV	日本における風刺、戯画	古代～近現代の政治・文化を中心とした出題。3. 難。アとエで迷うが、エは教科書脚注に記述がある。アの日野資朝が流されたのは隠岐ではなく佐渡である。5. 設問文から直接判断するのは難しいが、リード文を参考に、寛政期に処罰を受けた作家を選びたい。7. やや細かい。早稲田大学で過去に同様の出題があるので、早稲田大学の受験生であれば押さえておきたい。11. オの自衛隊の創設は吉田茂内閣での出来事。12. 漢字表記に注意したい。	標準

合格のための学習法

早稲田大学文化構想学部の日本史の問題は、一部に難問が出題される。ただ、多くの問題は受験生が学ぶべき項目から出題されているため、まずは教科書の記述を脚注や引用史料、図版を含めて、繰り返しよく読んで確認していくことが重要である。例年、テーマ的な出題となっており、中には特殊なテーマも見られるが、設問自体は基本を押さえれば解答できる問題が多いので、テーマに臆することなく冷静に問題を見ていきたい。また、いくつかは早稲田大学で過去に扱われた内容も見られるので、傾向をつかむためにも、文化構想学部はもちろん、他学部の過去問にも取り組んでおこう。